

# Q 「休止状態」に入らないようにしたい

Windows 10のノートパソコンをバッテリーで使っているとき、しばらく使わないと休止状態に入って復帰に時間がかかってしまいます。休止状態ではなく、できるだけスリープを使いたいのですが、どうすればよいでしょうか。

**A** Windows 8以降がプリインストールされたノートパソコンには、「コネクテッドスタンバイ／インスタントゴースト」や「モダンスタンバイ」などの機能があり、電源オフの代わりに「スリープ」状態が使われています。こ

の場合、スリープ中の電力消費が非常に小さくなるため、スリープを続けていても利用時間に大きな影響が出にくくなっています。Atomや第4世代以降のCore iプロセッサ（開発コード名：Haswell）を使うモバイルノートはこの機能を持つ可能性が

あります（図1）。これ以外のパソコンはスリープ中のバッテリー消費が少し大きいため、利用時間に影響が出てきます。ただ、設定できないわけではありません。

コネクテッドスタンバイ／モダンスタンバイ対応のパソコンでも、スリープ状態が長くなったときにバッテリーを節約するため、メモリーの状態をハードディスクなどに保存する「休止状態」に入ります。そうになると、復帰に時間がかかるようになってしまいます。しかし、設定でこれをオフにすることも可能です。

パソコンがコネクテッドスタンバイ／モダンスタンバイ対応かどうかを確認するには、「Powercfg」というコマンドを利用します（図2）。

スリープ後にハイバネーションに入るかどうかは、コントロールパネルの電源プラン設定で指定します（図3）。0分を指定してハイバネーションに入らなくするか、5～6時間以上の長い時間を設定しておきます。また、Windows 10の場合には、「設定」→「システム」→「電源とスリープ」にも設定があります（図4）。コネクテッドスタンバイ／モダンスタンバイでない場合には、外出中のバッテリー切れに注意しましょう。どの場合でも、バッテリー切れの場合は、強制的に休止状態になります。

（塩田 紳二＝テクニカルライター）

## 「休止状態」を使わない設定にするには

プリインストールOS	CPU	コネクテッドスタンバイ／モダンスタンバイ
Windows 7以前	全て	非対応
32ビット版Windows 8以降	Atom	対応
64ビット版Windows 8.1以降	AtomまたはHaswell以降	可能性あり(製品による)

図1 コネクテッドスタンバイ／モダンスタンバイに対応しているかどうかはCPUとOSが関係してくる

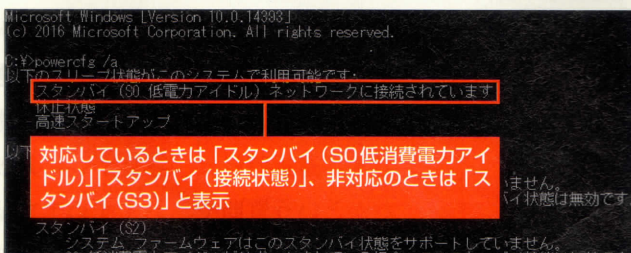


図2 コネクテッドスタンバイ／モダンスタンバイに対応しているかどうかは「Powercfg」コマンドで判定できる

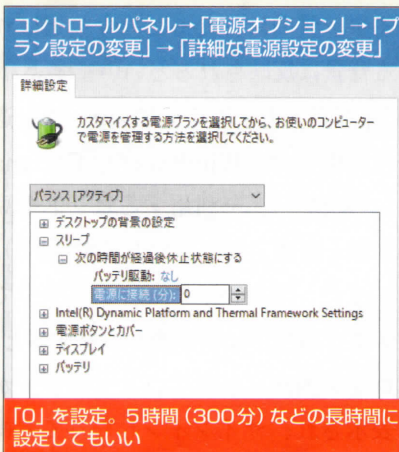


図3 詳細設定で、休止状態に入る時間を「0」に設定して「なし」にする

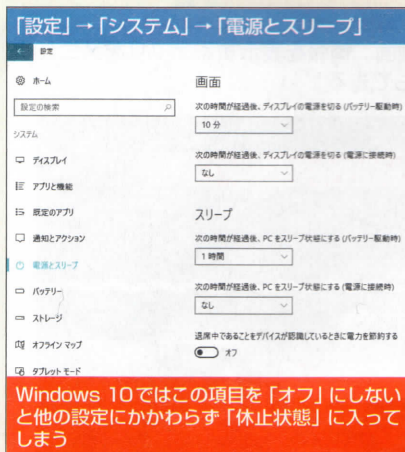


図4 Windows 10の場合は「電源とスリープ」にも設定があるので注意